

サハリン事務所現地レポート

2017年12月

(件名) ユジノサハリンスク市での「北海道フェア」の開催

報告者：主査 阿部 大祐

12月16日及び17日に、北海道が主催者として、ユジノサハリンスク市で本年2回目となる「北海道フェア」が開催された。会場では、北海道から輸出した果物、お菓子、たれ類、コーヒーなどの試食・販売や観光のPRが行われ、2日間盛況のうちに終わった。

店頭に立って実感したことは、市民の北海道への親近感や食品に対する評価の高さであり、気持ちよくPRができたことである。地理的な近さも関係するが、旭川市や稚内市など道北の自治体が行う物産展や道庁によるフェアなど、これまでの継続的な取組が効果として現れていることを強く感じた。サハリンには韓国や中国からも多くの食品が輸入されているが、今後の課題は、これらの商品と差別化を図りつつも、価格競争力を有さなければならないことだと思う。販路やロジスティック、大量輸送によるコスト削減など、総合的な取組が一層重要となる。

なお、同会場内では、在ユジノサハリンスク日本総領事館が主催する「日本文化デー」も開催され、北海道から招へいされた太鼓奏者による和太鼓の公演や、墨絵によるデモンストレーションが実施され、食とともに日本の文化についても総合的に発信でき、市民を魅了した。



「北海道フェア」ブースの様子



「北海道フェア」外観



総領事館主催「日本文化デー」での太鼓のワーク・ショップ

(件名) 東川米のPRイベントについて

報告者：所長 桜井 達美

12月17日、当地日本食レストランにおいて東川米のPRイベントが開催されたので報告する。

東川町から松岡町長をはじめとする町職員、樽井組合長をはじめとするJA東川職員、ジェット口関係者等がサハリンを訪問し、当地のロシア人におにぎりといなり寿司の作り方教室と試食を開催することで、町で生産される「ななつぼし」をPRした。日本人が経営する日本食レストラン「とよ原」には、サハリン州政府パブレンコ商業・食料大臣をはじめ住民約30人が集まり、おにぎりをふわっと仕上げるこつや具の詰め方などのデモンストレーションに興味深く見入っていた。その後、2つのテーブルに分かれての手づくり体験が行われ、銘々がはじめて自分で作った日本のご飯料理の試食も行った。非常に和やかな雰囲気イベントが開催された。

この後、別室で、松岡町長、樽井組合長等とパブレンコ大臣との意見交換が行われた。パブレンコ大臣からは当地での和食に人気がある一方、日本産の米があまり手に入らない現状について説明があり、今後、東川町産の米が入手できるようになることへの期待が述べられた。JA東川からは来年6トンの米をサハリンに輸出する計画であり、これをきっかけに更に販売を増やしていきたい旨が伝えられた。

上記「北海道フェア」のようなオール北海道としての食の売り込みだけでなく、こうした道内の単独市町村・団体の取組についても当事務所として今後とも積極的に支援していきたい。



展示された東川米を前に談笑する関係者



JA職員によるおにぎり・いなり寿司づくり体験



おにぎり・いなり寿司づくり体験